







環境への配慮

昭和産業グループは、世界中から多種多量の穀物を輸入し、多くのエネルギーと水を使用して、人々の生活に欠かせない「食」を提供しています。そのため、地球環境の保全とともに、「食」の安定供給は、当社グループにとって大きな使命であると考え、推進していきます。

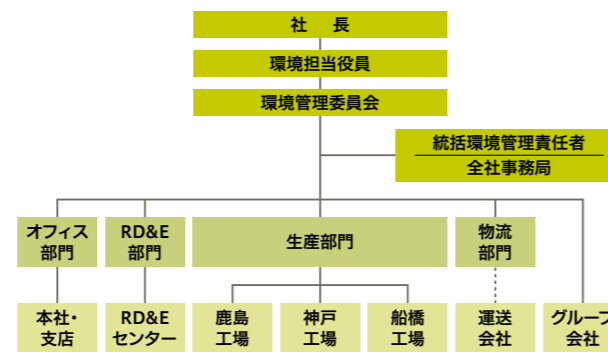
重要課題と主な取り組み

重要課題	主な取り組み	関連するSDGs
① 持続可能な生産活動	1. 気候変動対策：CO ₂ 排出量の削減 2. 食品ロスの削減 3. 資源循環（3R）の強化 <ul style="list-style-type: none"> 容器包装に用いるプラスチックの削減 省水 	   
② 持続可能な資源活用	1. 持続可能な原料調達の推進 2. 国内農業の持続的発展への貢献 3. バイオマスの高度利用化	 

環境マネジメント推進体制

当社グループは、「CSR委員会」の傘下組織である「環境管理委員会」において、環境対策に関する重要な課題に対する方針を審議・決定しています。この環境マネジメント推進体制のもと、「環境基本方針」に基づき、目標や施策などの決定や環境関連データの管理を行うとともに、環境マネジメントシステムが適切に運用されているかを確認しています。

昭和産業グループ環境管理体制図



※ グループ会社は、連結子会社（19社）、生産工場を持つ非連結子会社（2社）を管理対象としています。

中長期目標と達成状況

2020年度を最終年度とする中長期目標について、2019年度の実績としては下表の通り目標を達成しました。生産部門は、2020年度の目標に向けて継続して取り組んでいます。

さらに、2030年度に向けた新中長期環境目標の策定を開始しており、CO₂排出量削減目標については、2013年度のCO₂排出総量を基準として、「昭和産業グループ全体で2030年度までに26%以上削減への挑戦」とすることを決定しました。今後も、省水などの数値目標の策定を進めていきます。

（評価○：順調に進捗）

テーマ	中長期目標	2019年度目標 (基準進捗)	2019年度実績	評価
気候変動対策	昭和産業グループ ^{※1} は、CO ₂ 排出量原単位 ^{※2} を2020年度に2009年度比15%削減する	-13.5%	-18.6%	○
	昭和産業生産部門は、CO ₂ 排出量原単位を2020年度に2009年度比20%削減する	-18.0%	-18.5%	○
資源循環	廃棄物の再資源化率95%以上を維持	95%	97.4%	○
	食品廃棄物の再生利用率95%以上を維持	95%	99.9%	○

※1 昭和産業単体を含む、主要生産系子会社である、敷島スターチ株式会社、奥本製粉株式会社、九州昭和産業株式会社、株式会社スウィングペーカリーの5社（2009年時点での省エネルギー法定期報告対象の企業）を算出対象としています。（環境管理対象全22社のCO₂排出量に対し、算出対象5社で約91%をカバーしています。2020年3月末時点）

※2 CO₂排出量原単位の算出には、2009年度の電力排出係数を使用しています。各年度の排出係数使用での2019年度実績は、グループ全体が-11.8%、昭和産業生産部門が-10.7%です。

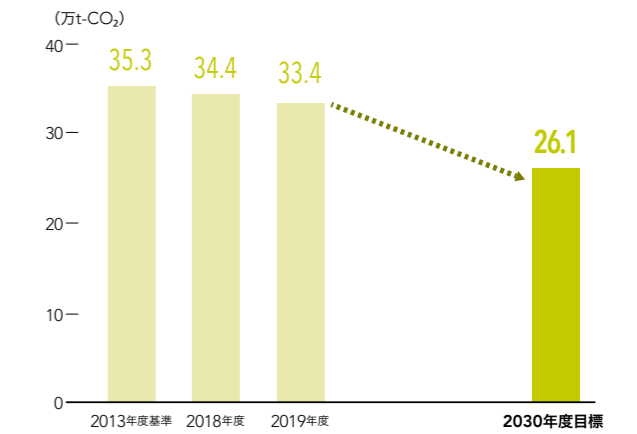
① 持続可能な生産活動

▶ 気候変動への取り組み（CO₂排出量の削減）

2019年度のCO₂排出総量は、生産工程の省エネ活動などにより、前年度に比べて約10,000t削減しました。

新中長期目標の「2030年度までに26%以上削減への挑戦」の施策として、(1) 鹿島工場においては、燃料原料の石炭から都市ガスへの変更、バイオマスボイラーの増強更新などのユーティリティ改善、(2) 当社グループ全体としては、生産工程などでの省エネ活動の推進によるエネルギー消費原単位を前年度比1%の削減を行うことで、CO₂排出量削減に取り組んでいます。

CO₂排出量の推移(昭和産業グループ)



● CO₂排出量の算出には、各年度直近の電気事業者別の基礎排出係数を使用しています。
 ● 2013年度基準排出量には、2014～2018年度にグループ会社となった4社（セントラル製粉株式会社、ガーデンペーカリー株式会社、タワーペーカリー株式会社、スターペーカリー株式会社）の2013年度排出量を含みます。

▶ 食品ロスの削減（製品廃棄の削減）

食品ロス（製品廃棄）の発生について、2016～2018年度の3年間の平均値を基準として、2022年度には食品ロスを5%以上削減することを目標に活動を始めました。2019年度は目標に対して+8%と、目標は未達という結果でした。食品ロス削減に向けて、需給管理や在庫管理についての取り組みを進めていきます。

▶ 容器包装のプラスチック使用量削減

循環型社会を実現するために、プラスチックなどの容器包装資材の3R（Reduce、Reuse、Recycle）は大切なキーワードであり、容器包装プラスチックの削減を継続して推進しています。2019年度の容器包装プラスチック削減の具体的な事例としては、一部の業務用スパゲッティ製品（4kg入り）やマカロニ製品（3kg入り、4kg入り）の包装フィルムの厚みについて、約12%の削減を実現しました。



容器フィルムの厚みを約12%削減

② 持続可能な資源活用

▶ バイオマスを使用した「ごみ袋」

ごみ袋の原料の一部に当社バイオマスを20%使用することにより、石油由来プラスチックの使用量を削減し、CO₂排出を抑えた設計としています。ごみ袋の使い勝手を検証するために、千葉県船橋市役所本庁舎で実証実験に取り組んでいます。また、当社がオフィシャルパートナーを務める鹿島アントラーズのホームスタジアム（茨城県立カシマサッカースタジアム）においても、同様の取り組みを進めています。



バイオマスごみ袋